

新宮崎市の文化財に関する新たな視点

宮崎県地方史研究会

永松

敦

目次

- 一 はじめに
- 二 神 楽
 - (一) 生目神楽
 - ① 鬼神舞
 - ② 剣舞
 - ③ 太玉・柴荒神
 - ④ 箕舞
 - ⑤ 田の神
- 三 箕舞に関する考察
- 四 ひな山
- 五 野田泉光院
- 六 おわりに

一 はじめに

平成十八年一月一日、宮崎市は田野町・高岡町・佐土原町と合併し、人口約三十八万の市へと大きく成長した。田野・高岡・佐土原とどこを見ても文化財の宝庫であり、これからの宮崎市は文化遺産を活かした町づくりを注がなければならなくなるだろう。今、宮崎市は生目古墳群の国史跡指定に湧き立っている。市内に著名な文化遺産があるだけで、人々の注目度は高い。

しかし、これまで宮崎市には本当に文化遺産が少なかったのだろうか。私は宮崎市民となつて三年目になり、市内各地を調査して歩くと、何故多種多様な文化財が今まで見過ごされてきたのだろうか、と驚きを隠しきれない。これほどの文化財に恵まれた都市も珍しいのではないだろうか。この度の合併でさらにフィールドが広がった。これからも数多くの新たな文化遺産に出会うことになるだろう。

宮崎県はよく全国屈指の神楽県だと言われる。当地で神楽と言えば、やはり高千穂の夜神楽をはじめ、^{椎葉、米良}（西米良・西都市東米良地方一帯）、そして、霧島山麓の^{はらち}祓川の神舞（高原町）を思い浮かべるだろう。宮崎民俗学会会長である山口保明氏の研究成果のお陰で、新富町の新田神楽や宮崎市内の生目神楽などが、同氏著『宮崎の神楽』や『宮崎県史』などを通して世に知られるようになった。筆者もここ二、三年神楽を見始めたばかりだが、その種類の豊富さと内容の奥深さに感動している。宮崎市もまた、立派な神楽の里ではないか。そのような思いが込み上げる。ところが、宮崎市民でさえも、神楽といえは奥深い山里に行かなければ見られないものと思いがちである。実際、市内大塚町の大塚八幡神社の神楽を見たあとに、この話を大塚在住の方のすると、「こんな街中に神楽なんかあるのですか。」という答が返ってきた。宮崎市民にとつて、宮崎市内の神楽はとても縁遠いものがある。このままでは後継者も育たず、多くの市民に知られることなく絶えてしまうかも知れない。

私の仕事としては、まず緊急に市内の文化財の実態把握をしなければならぬ。次に、市内の文化財に関する価値評価を他所と比較して、その特色を世に公にする必要がある。そして、最後には、市民に市内の文化財の重要性を知らしめ、宮崎市が官民一体となって「文化の街づくり」を推進することに寄与することである。こうした思いを込めて、今回は学術面で神楽を中心に、新宮崎市として新たに仲間になった周辺諸地域の文化的特色について述べてみたい。なお、県立図書館の講演とは内容が若干広がっていることを予めお断りしておきたい。

二 神 楽

宮崎市は春神楽の多い地帯である。三月から四月にかけて、土日や春分の日などに神楽が集中して行われる。実見できたところを、一通り紹介しよう。

(一) 生目神楽

三月十五日に近い土曜日。午後三時頃から翌日の午後十時過ぎまで三十番程度の演目がある。場所は生目神社境内の神楽殿。本来は神社横の庭に、神楽場（神楽を舞う場所）を作つて舞っていたが、雨がこの時期多いことや、旧暦一月十五日の大祭や正月などでも一年に幾度か神楽を舞うようになったため、建物が必要となった。神楽場には必ず注連が立てられる。南九州の神楽は、大宝の注連という五メートルほどの竹竿に、先端部には御幣を幾本か付けたものを立てる。生目の場合は、建物のなかに設置されるため、高さは一メートルほどのものが三本立てられる。贄として鶏一羽が献じられている。生殺しの状態で三宝に載せられており、時々羽音を立てて人々を驚かす。この鶏は、午後八時頃暖を採る火で焼き鳥として料理され、観客に振舞われる。宮崎の神楽はどこも饌供撒きと称して、大

量の餅が撒かれる。生目でも三、四回餅撒きがある。前日までに地区総出で餅を搗いて準備しているという。
 神楽演目は次の通りである。資料は生目神楽保存会が作成したものを抜粋する。

生目神社神楽番付

番付	演目名	内容
一番	神酒舞	神楽はじめの舞。神酒を捧げ四方を祓い清める。
二番	鬼人(神)舞	鬼の面をつけての最初の舞。
三番	一人剣	剣(刀)の最初の舞。
四番	三笠	両手に円錐形の笠をもって荒々しく舞う。
五番	二人剣	二人で剣をもって舞う。
六番	金山	笑いの面を着けて調子(太鼓)よく四方に舞う(ニカメンという)
七番	氏舞	天鈿女命、アメノウズメノミコトの舞。嫁女の舞という。
八番	二人剣	二人で剣をもって舞う。
九番	放社舞	連舞の舞始め。サキモリ・鎮守という。
一〇番	里人	里の住居と安全を祈る舞。

番付	演目名	内容
一番	稲荷山	山を守り風難除けの舞。女面を着ける。
二番	陰陽	天地、昼夜、日月、男女の舞。
三番	神武	スメラミク皇神国・安泰の舞。
四番	二刀舞	剣二本を持って舞う。
五番	三方(宝)荒神	建雷神タケイカズチカミでただけしく舞う。
六番	将軍	弓矢を持って悪魔を祓う。弓正護ともいう。
七番	雑刀舞	雑刀で悪魔を祓う。
八番	太玉舞	タジカラノオミコト(手力男命)が樹を根こそぎ引き起こす舞。
九番	岩通し	三人で剣を組み合わせ交互にくぐる舞。
一〇番	四人剣	剣を持ち四方鎮護神の舞。四人神示ともいう。
三番	柴荒神	岩戸の前に柴立て飾る舞。
三番	杵舞	豊作を祝い餅をつく舞。一人は女形。
三番	田ノ神	田の神が国産み。農耕を教える神主と問答をする。
二四番	神送り	神々が元津社に送る舞